
長野市キャリア教育ガイドライン

自分を知り 自分をつくり 自分を活かす キャリア教育

自律心と創造性豊かな人間の育成



平成 26 年 12 月
長野市教育委員会

目 次

I	「キャリア教育」とは	・・・ 1
	～キャリア教育の理解の共有～	
	・キャリア教育の定義	・・・ 2
II	長野市のキャリア教育の目標、方針と方策	・・・ 3
	1 目標	
	2 方針	
	3 方策	
III	長野市教育委員会の取り組み	・・・ 8

I 「キャリア教育」とは ～キャリア教育の理解の共有～

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や
態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

(中央教育審議会答申 平成23年1月)

□ キャリア発達

- ・ 社会の中で自分の役割を果たしながら、
自分らしい生き方を実現していく過程

□ キャリア教育が求められる社会的背景

- ・ 社会環境の変化 (少子高齢社会 人口減少社会 情報化 国際化等)
- ・ 国民の意識や生活の変化 (価値観の多様化 生活時間等)
- ・ 地域、社会、家庭の教育力の低下 (職業 人間関係 核家族等)
- ・ 高学歴社会による進路決定の先送りや職場での不適応
(体験活動 職業学習 人間関係等)

「生きる力」から「生きぬく力」の育成

□ 学校教育に求められていること

- ・ 社会的自立に向けた基礎的な資質や能力の育成
- ・ 学校の学習と社会とを関連付けた学習
- ・ 異年齢や異校種間の交流や協同による学習や活動
- ・ 家庭・地域との連携や様々な体験学習

□ 「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力」の要素

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能
- ・ **基礎的・汎用的能力**
- ・ 論理的思考力
- ・ 創造力
- ・ 意欲、態度及び勤労観、職業観等の価値観
- ・ 専門的な知識・技能

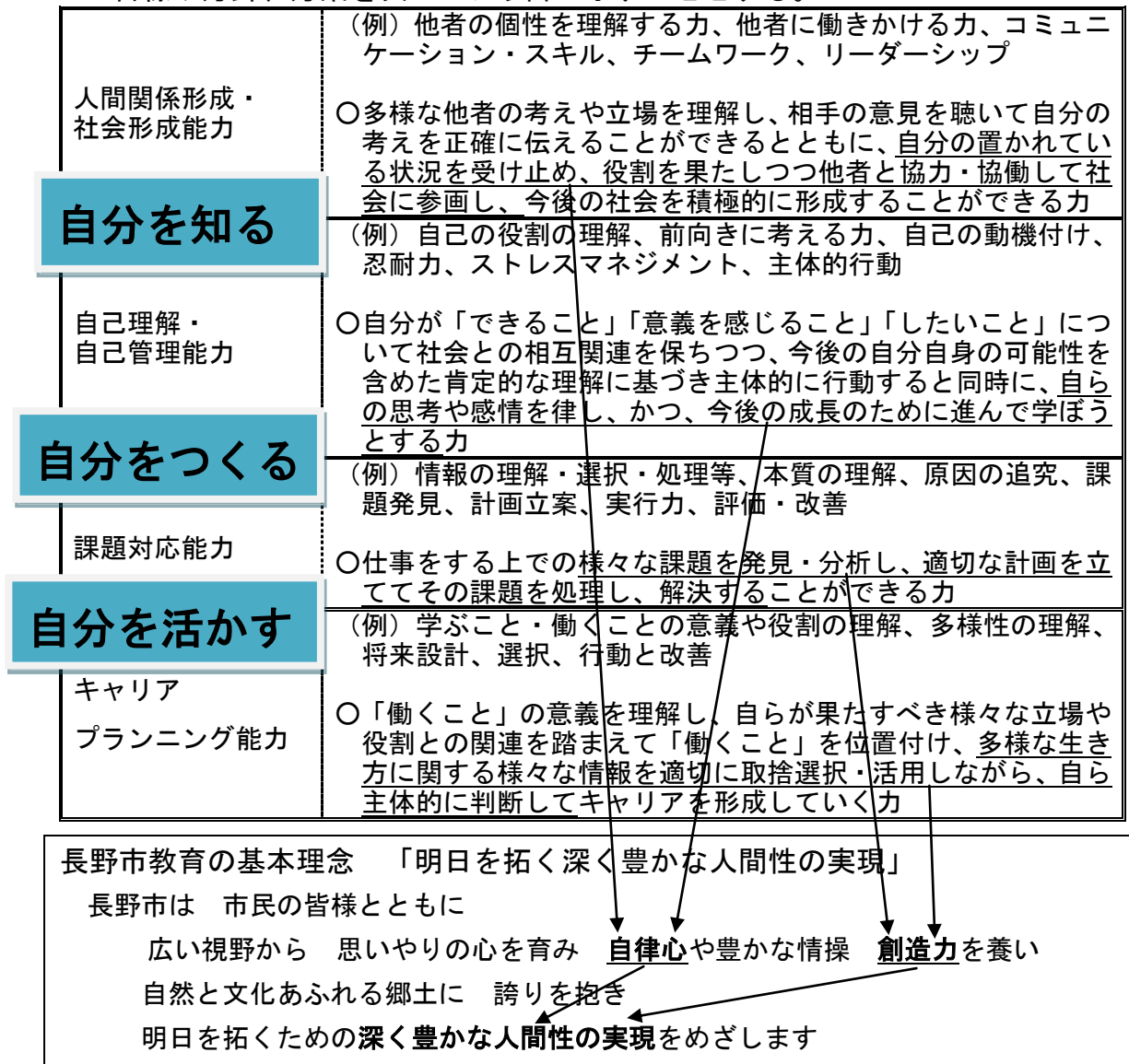
特に、「基礎的・汎用的能力」については、キャリア教育の中心として育成
していくべきこととして、次の4能力を規定

- 人間関係形成・社会形成能力
- 自己理解・自己管理能力
- 課題対応能力
- キャリアプランニング能力

- 進路指導とキャリア教育
 - ・進路指導は定義・概念としてはキャリア教育との間に大きな差異は見られず、その取組は、キャリア教育の中核をなすといえることができる。新学習指導要領の総則で「生徒が自らの生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行うこと」と述べられており、幼少期から生涯にわたってキャリア発達に必要な力や基礎的・汎用的能力（上述）を育む視点を大切にしたい。
- 職業教育
 - ・一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育てる教育
- 基礎的・汎用的能力の内容（中央教育審議会答申）と長野市教育の基本理念

キャリア教育の中心として育成していく4つの能力や態度の内容を、長野市教育の基本理念と照らし合わせてみると、それらは、長野市教育の基本理念の「自律心」や「創造力」と関係していることがわかる（下の表を参照）。

よって、長野市においては、基礎的・汎用的な能力を育成することが、長野市教育の基本理念の具現につながると考え、長野市としてのキャリア教育の目標や方針、方策を次ページ以降に示すこととする。



Ⅱ 長野市のキャリア教育の目標、方針と方策

1 目標

自律心と創造性豊かな人間の育成

～ 自分を知り 自分をつくり 自分を活かす キャリア教育 ～

2 方針

- (1) 長野市教育の基本理念「明日を拓く深く豊かな人間性」の理念に基づき、家庭・地域の教育力を生かし、地域社会全体で子どもを育てる。
 - ・ 人材・環境・文化等のすぐれた教育力を活用する。
 - ・ 地域社会でさまざまな体験をし、多くの人と触れ合うことを通して、学ぶ目的や働く意味、生き方等について考えさせる。
- (2) 発達段階に即し、小・中・高が一貫した理念で子どもを育てる。
- (3) 各学校では、既存の取組や教育活動をキャリア教育の視点から見直し、体系化する。

長野市教育の基本理念 「明日を拓く深く豊かな人間性の実現」

長野市は 市民の皆様とともに

広い視野から 思いやりの心を育み 自律心や豊かな情操 創造力を養い
自然と文化あふれる郷土に 誇りを抱き

明日を拓くための深く豊かな人間性の実現をめざします

3 方策

- (1) 家庭・地域の教育力を活用し、学校におけるキャリア教育を支援するための仕組（プラットフォーム）を市教育委員会内におく。
- (2) 小・中・高の連携をキャリア教育の視点で更に推進する。
- (3) 各校で教職員のキャリア教育に対する意識統一を図り、指導力向上のため研修を推進し、キャリア教育の目標、指導計画の見直しを行う。また、職場体験学習等の事前・事後の指導を充実し、その振り返りを通して自分自身の成長や今後の課題に気づかせる。

1 家庭・地域の教育力を生かし、 地域社会全体で子どもを育てよう

長野市の家庭・地域の教育力とは

- すぐれた人材が豊富
- 恵まれた自然環境と伝統ある文化
- 地域と学校の連携が密

長野市は体験的な学習が充実している

- 職場体験学習
- 自然体験活動
- 奉仕・福祉体験活動
- 異文化理解学習
- 地域行事への参加
- 人との関わり

長野市教育の基本理念 明日を拓く深く豊かな人間性

【方策(1)】学校を支援する仕組（プラットフォームの構築

- ・「キャリア教育支援懇談会」の開催
- ・職場見学・体験等の充実に向けた情報提供と体制づくり

2 発達段階に即し、小・中・高が一貫した理念で子どもを育てよう

子どもの成長をキャリア発達という視点で連続的にとらえる。

【方策(2)】小・中・高の連携をキャリア教育の視点で更に推進する

「キャリア教育支援懇談会」において、学校や学術・産業界、PTA等の声を聞きながら、市教委が学校に情報提供を行い、参考例を示す。

3 各学校では、キャリア教育の研修を充実させ、既存の取組や 教育活動をキャリア教育の視点から見直し、体系化しよう

新しいことを始めるのではなく、まず今ある活動を見返すことが大事

- 各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の学習内容を整理
- 日常活動・行事の見直し
- キャリア教育の視点で整理した全体計画・指導計画の見直し

【方策(3)】教職員の研修の推進

各学校の研修の充実 市教育センター研修講座におけるキャリア教育を視点とした内容の充実 教育センターキャリア教育研究委員による授業研究実践と公開授業 指導主事の学校訪問

【方策(3)】キャリア教育の目標・指導計画の見直しと、職場体験学習等の事前・事後指導の充実

各学校の実態や地域の実情に応じたキャリア教育の目標・指導計画を見直し、日常的な指導や職場体験学習をさらに充実させる。

方策の具体① 産学官等の諸機関、団体が連携するキャリア教育支援

長野市キャリア教育支援懇談会を中心とした学校を支える仕組 (プラットフォーム)

1 「長野市キャリア教育支援懇談会」の仕組

(1) 目的

【方策(1)】により、長野市教育委員会を中心に「長野市キャリア教育支援懇談会」を設置する。長野市のキャリア教育プラットフォームづくりを推進し活動を支援することによって、長野市全体のキャリア教育の進展を図る。

(2) 組織

産業界：経営者協会 商工会議所 等 より

教育界：学校長、教頭、PTA関係 等 より

学術界：大学関係 等 より

行政：商工観光部の代表(産業政策課 雇用促進室)

事務局：市教育委員会学校教育課

(3) 役割

① ガイドラインに基づく長野市キャリア教育の状況把握と推進策、改善策の検討

② 小・中・高のキャリア教育カリキュラム構築の支援

③ 小・中学校の職場見学・職場体験学習・高校就業体験受入先、派遣講師等のデータベース更新

(4) 会議・研修・研究

名称	参加者	内容	回数(年間)
総会	全員 (2)組織 記載者	○懇談会の役割(3)に係る事項全般 ○年間の活動計画と総括	2回程度
キャリア教育研修	小中学校等教職員対象	○各校のキャリア教育の工夫、課題等の情報交換と研究懇談 ○管理職研修 ○校内研修 ○教育センター研修 等	適宜
教育センターキャリア教育研究委員会	学校長 小中学校教諭 教育センター指導主事	○キャリア教育を視点に据えた教育研究と授業公開、研究のまとめ冊子刊行	全校に公開授業の案内を配付 研究のまとめ冊子は全教職員に配付

方策の具体② 小・中・高において、一貫した理念による子どもの育成

小・中・高の連携をキャリア教育の視点により更に推進

長野市のキャリア教育の目標「自律心と創造性豊かな人間の育成」

キャリア教育の中心として育成していく力				
段 階	人間関係形成・社会 形成能力	自己理解・自己管 理能力	課題対応能力	キャリアプランニ ング能力
小学校 低学年	①小学校生活に適応し、友だちと仲良く遊び、助け合う。(群れて遊ぶ体験) ②自分の好きなことを見つける。(のびのび活動する体験)			
小学校 中学年	①係や当番活動に積極的にかかわり、働くことの 楽しさが分かる。(役割貢献・お手伝いの体験) ②友だちと協力して活動する中で、成就感を味わう。(人とかかわる体験)			
小 学 校 高学年	①集団において自分の役割や責任を果たし、 最後までやり通す。(やり遂げる体験) ②体験したり学んだりしたことと、生活や職業との 関連を考える。(地域社会とつながる体験)			
<p>小学校においては、 社会性・自主性・自律性・関心・意欲等を養うことが大切</p>				
中学校	①興味・関心・意欲等に基づく勤労観・職業観の形成 ②コミュニケーション能力の育成 ③肯定的自己理解と自己有用感の獲得			
<p>中学校においては、社会における役割や将来の生き方等を考えさせ、 目標を立てて計画的に取り組む態度を育成し、進路の選択・決定に導くことが大切</p>				
高等学校	就業体験活動(インターンシップ・全員実施)等による職業観・勤労観の育成			
<p>高等学校においては、職業観・勤労観の育成と進路研究、自己適性の理解、将来設計の 具体化等自己の将来を考え、社会や職業に対する認識を深めるとともに、学ぶことの 重要性を考えさせる機会となるよう、地域や学校の実態、生徒の状況に応じて内容や 方法を工夫し、実施することが大切</p>				

方策の具体③ キャリア教育の研修充実と、 キャリア教育の視点からの既存の取組や教育活動の見直し、体系化

1 キャリア教育研修の例（40～60分）

(1) キャリア教育に関する答申や資料を基に、キャリア教育について共通理解を図る。

ポイント 「今、なぜキャリア教育なのか?」「キャリア教育で育成する力とは」
「基礎的・汎用的能力の理解」

(2) 既存の取組や教育活動を付箋にメモし、4つの能力の観点から分類する。

学年	①人間関係形成・社会形成能力	②自己理解・自己管理能力	③課題対応能力	④キャリアプランニング能力
小1, 2				
小3, 4				
小5, 6				

一緒に遊びを考えて、1, 2年生の合同遠足を実施する。実施後に、一緒に振り返る。

学級に必要な係を学級会で決める。活動は、児童が提案し、仕事の分担を明確にする。

高原学校で「学年のめあて」を話し合っけて決めて掲示する。しおりの内容や反省に反映する。

消防署や浄水場、清掃センターの見学の際に「働くこと」を意識した質問をし、まとめに活かす。

(小学校の例)

2 キャリア教育全体計画の見直しの例

(1) 自校のキャリア教育全体計画を以下の視点で見直す

- ・学校教育目標との関連が明確か? ・学校ランドデザインに位置付いているか?
- ・基礎的・汎用的能力に規定されている4つの能力が位置付いているか?
- ・小中あるいは、中高の連携が意識されているか?
- ・学校としての「キャリア教育の重点」がはっきりしているか?

(2) 自校のキャリア教育の体系を以下の視点で見直す

- ・キャリア教育としての取組を

「教科や道徳、総合的な学習におけるキャリア教育」

「特別活動や部活動、課外活動等におけるキャリア教育」

「日常生活におけるキャリア教育」 に分類し、それぞれの取組のねらいや評価方法を検討する。

Ⅲ 長野市教育委員会の取組

1 キャリア教育支援懇談会の設置・運営を中核として推進

(1) 学校と連携しながらの運営組織の決定・運営

- 市教育委員会事務局による「長野市キャリア教育支援懇談会」の組織作りと運営
・キャリア教育支援懇談会開催（年2回程度）

(2) 小・中学校における職場見学・職場体験学習実施の支援

- 職場見学・職場体験受入先事業所の調整・開拓・拡大
・主に市内中学校の職場体験学習受入事業所等の情報収集と情報提供

(3) 各校におけるキャリア教育推進のための支援

- 小・中・高のつながりを意識したキャリア教育カリキュラムの検討と情報提供
- 教育センターでの教職員研修の充実

(4) 市立長野中学校・長野高等学校と小中学校が連携したカリキュラムを検討

- 主に小中学校と高等学校とのつながりを意識したキャリア教育カリキュラムの検討と情報提供

2 家庭との連携を積極的に支援

- 長野市大人と子どもの心得八ヶ条の啓発活動
・「あいさつ」「思いやり」「命の尊重」「家族の会話」など家庭におけるキャリア教育の取組の推進

3 地域との連携を積極的に支援

- 地域の企業へのキャリア教育の広報活動
- 社会人講師や協力ボランティア等の情報提供
- 体験活動・地域行事における活動の様子の広報